

## 第 3 回世界都市農業サミット推進委員会 会議録

日時：平成 29 年 4 月 10 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分

会場：練馬区役所 5 階庁議室

## 1 開会

## 2 議事

## (1) 東京および練馬の都市農業の現状

※事務局より資料 1 と「ねりまの農業」を用いて説明。

## ■副委員長

- ・ 質問・意見等、特になければ、つぎの議事について、事務局より説明をいただきたい。

## (2) 世界都市農業サミット開催計画（概要・案）について

※事務局より資料 2 と資料 3 を用いて説明。

※委員長（欠席）からの「欧米における都市農業の最近の動向について」事務局から代読。

## &lt;開催の趣旨およびねらい&gt;

## ■委員

- ・ 「1 いま、なぜ、世界都市農業サミットか」に、「サミットでは、参加各都市が都市農業の意義と魅力を共有」と記載されているが、参加各都市およびその市民や、サミットに参加しない都市およびその市民等、多くの人に都市農業の良さを知ってもらうことが大きな目的であると思われる。その点を踏まえると、どこまで参加希望を受け付けるのか、また PR していくのか等、明示していくことが必要ではないか。
- ・ 都市農地保全推進自治体協議会（以下、自治体協議会）のフォーラムを年 1 回開催されているが、現在の開催計画（概要・案）をみると、フォーラムの中に海外からの招聘者が参加するような、フォーラムの延長の取組であるように感じてしまう。サミット開催の主目的を踏まえると、開催の趣旨やねらいの書きぶりは、変わってくるのではないか。

## ■事務局 都市農業課長

- ・ 自治体協議会よりもより大きな会を想定しており、練馬区を除く会員 37 自治体や川崎市や横浜市等の近隣自治体にも呼びかけながら、取組を進めていきたいと考えている。
- ・ 今後詳細を詰めていく段階で、自治体協議会のフォーラムの一部としてとらえられないような形で開催概要への反映や取組を進めていきたい。

## ■委員

- ・ 現在の開催のねらい 3 点とは異なるねらいを考えている。具体的には、「より豊かに都市生活を過ごしていくために、農業が必要である」という観点である。都市住民の視

点から都市農業の役割を評価する中に、発展やネットワーク等があるのではないか。暮らしのすべてに係ることとして、それぞれの立場から農業がどのように役に立てるのか、という見方があってもよいのではないか。

- ・ 具体的には、「都市の豊かな地域社会に資する農業」というように、軸足を変えるとよい。農業者の立ち位置を中心とすることは重要だが、都市農業を中心とした考え方は、自分とは関係ないことと捉える人が出てくる懸念がある。しかしながら、都市の暮らしを豊かにするための農業の役割を考えることで、都市に住むすべての人が接点を持つことができる。

#### ■事務局 都市農業課長

- ・ 「1 いま、なぜ、世界都市農業サミットか」に、「練馬の農業は、今後の都市における市民生活をさらに豊かにする可能性を秘めている」と記載しているとおり、この点がサミット開催を考えるに至った出発点であり、それを踏まえて開催のねらいを作っている。
- ・ 指摘いただいた表現の方が望ましいのであれば、他の委員の意見も踏まえ表現について検討する。

#### ■委員

- ・ 地域社会に資するということは記載されているが、一般の都市住民から見ると、印象が薄いと感ずるのではないか。

#### ■委員

- ・ 開催のねらいの3点では、農業の多面的機能をうたっているが、都市としてどのように「食」を提供することが理想か等、「食」に関する表現を読み取ることができないため、分かるような記載が必要ではないか。「食」の豊かさが、豊かなライフスタイルの提供につながり、また農業に係ることが豊かな都市生活につながるというシナリオが描けるのではないか。具体的にどのように記載すべきかのアイデアはないが、この点について、考えていくことが必要ではないか。
- ・ 東京オリンピックの開催を翌年に控え、東京の野菜をオリンピックで提供できるのか。提供野菜の基準として GAP が採用されるようだが、生産量を担保できるのか。オリンピックの開催に向け、さまざまなイベントが開催される中で、今後都市としてどのような「食」を提供するのか、また提供している「食」が海外からどのように捉えられるのかという点も加えるとよいのではないか。

#### ■副委員長

- ・ 開催のねらいの1つ目に書かれているとおり、都市農業の役割や魅力等を国内外の人に発信していくことが目的の一つであるが、練馬区で開催するということは、サミットを通じて練馬区の今後の農業の展開につなげていくことも意義としてある。その点を踏まえると、開催のねらいの「(2) 都市農業に関するネットワーク化と情報共有が進み、新たな取組が広がること」というのは表現が弱いのではないか。少なくとも、「新

たな取組を広げること」という主体的な姿勢で取り組んでいくべきであり、より積極的な表現をすべきである。

- ・ この点については、分科会をどのように開催するかにも繋がると思うため、考えていただきたい。

#### ■委員

- ・ 先進国では都市の中に農業がないことは皆知っていることだが、東京には都市の中に農業があるという点は、打ち出すべき点である。先進国の都市は、市街地と農地を明確に区分して都市を形成してきたが、東京はそのような都市の発展の経緯を辿らずに、農地が都市の中に残ってきた。今後、他の都市において、欧米諸国とは異なる都市の発展経緯を辿る都市として東京のようなモデルがあることを認識し、目指してもらうことが重要であり、サミットにおける意義のひとつではないか。今後の都市づくりにおいて農業を位置づける動きが出てくるのではないか。都市づくりにおいて東京が先進的であることを住民が認識し、農業者も自らが先進的であるものに関わっていることを認識することができる。
- ・ 「新たな取組が広がっていくこと」という表現は、「自分たちで広めていくこと」としてもよいのではないか。

#### ■事務局 都市農業担当部長

- ・ 開催のねらいの枠囲みの下に、積極的な表現を記載しているつもりだが、枠囲みの表現をより積極的な表現に変えていく。
- ・ 「1 いま、なぜ、世界都市農業サミットか」の中で、都市農業が暮らしを豊かにする役割を担っており、都市生活になくてはならないものであるということについて、より強調した表現を検討する。
- ・ 「食」の必要性については、都市農業の前提であり、開催のねらいの（1）にある都市農業の役割の中に一番出てくるものであるが、すべてを盛り込むと細かな表現となるため、分科会の議論等とあわせて検討していきたいと考える。

### <プログラムおよび分科会>

#### ■委員

- ・ 分科会（案）について、「農がつくる新しいライフスタイル」と「農を活かす新たな都市像」は見分けがつきづらく、分かりづらい。「農がつくる新しいライフスタイル」の軸足はロンドンやパリ等のグローバルスタンダードな都市における都市住民にあり、「農を活かす新たな都市像」は東京における生業としての農業に軸足がある。このような分け方が分かりやすいと感じた。

#### ■委員

- ・ 分科会はサミット宣言に繋がる重要なことだが、現在のテーマでは、推進委員会の委員は理解できるが、サミットに関わりを持っていない人がどの程度興味を持てるのか。

裾野を広げるためには、固い言葉が並んでいると、分科会の参加者も構えてしまうことから、現在表現されている内容について認識したうえで、表に出すテーマはより分かりやすく、シンプルな表現が必要である。

#### ■委員

- ・ 農業に関する技術的な部分についても、議論していくことは重要である。
- ・ 具体的には、住民との関係、産業としての農業、都市政策や緑政策といった3つがテーマとして考えられる。「農を活かす新たな都市像」は、大変重要であるが、産業としての農業も重要であり、3つのテーマをあわせて発信していくことが重要である。

#### ■委員

- ・ 農業と言っても、世界各地で条件や状況は異なる。東京ではどのように農地を活かし、農業を営み、高品質な商品を生産しているかという日本の特性について、世界が興味を抱くはずである。このため、生産したものを、区民や都民にどのようにうまく利用してもらうか等について検討していくことが必要である。
- ・ 農地に限らず、建物内での農産物の生産も進んでおり、そうした社会環境の変化も踏まえた検討が必要である。

#### ■委員

- ・ 「持続可能な都市農業」と「農業が都市住民の豊かな都市生活にどのように寄与するか」というテーマで明確に分けて議論していくことが重要である。
- ・ 東京に農業が持続的に維持されていくことが、サミット開催の目的の一つであると思われるため、その点を外さないようにテーマを設定していただきたい。

#### ■委員

- ・ 世界各地から関係者が集まる中、各国の都市農業政策について議論することは重要である。テーマ全体を包み込むものが「食」であり、各テーマの横串が行政の役割ではないかと考えた。

#### ■副委員長

- ・ 2つのテーマにくくることは難しいとの各委員からの指摘と関係するが、「農がつくる新しいライフスタイル」には、多様な点が含まれ過ぎており、一つの分科会で議論するのか、分けて議論するのかについて検討する必要がある。「生産者と、飲食店や商業者、消費者との連携や交流により、都市農業ならではの美味しさや食の豊かさを感じられるライフスタイルを提案」とは、農業生産に係ることである。環境保全的な都市の形成にあたって農が果たす役割について議論する分科会、また福祉・教育という観点から豊かな都市生活の形成にあたって農が果たす役割についての分科会とに分かれるのではないかと考えた。

#### ■委員

- ・ 推進委員会の委員は、行政や農業者等であり、そうであれば現状のプログラム案もシンポジウム等の学術的な色の強い内容でも良いのかもしれない。

- ・ 都市農業は、生産と消費の場がすごく近いことが特徴である。「農がつくる新しいライフスタイル」の中には、生産と消費が混ざった記載となっている。しかしながら、生産された農産物が産業品として消費されるということは、現在記載されている内容からは異なる次元の話であると考えられる。このため、分科会の下に、生産と消費とを分ける必要がある。農業従事者や行政関係者で開催する分科会のほかに、消費についてはワークショップ等として分科会とは異なるものとして開催するのもよいのではないか。花き等の鑑賞を除き、農産物の大半において、消費とは食べることであり、消費に関する議論を集中的に行うことで、新しい取組のアイデア等も出てくると思われる。
- ・ また、つぎを担う子ども達に対して、「学校の周りでこれだけの農産物が作られていることはすごい」ということを認識してもらうのであれば、食育というテーマも考えられる。
- ・ サミットに参加するメンバーには、区内の飲食店だけでなく、発信力のある著名なフードコーディネーターやシェフに参加いただくことも重要である。

#### ■委員

- ・ 分科会のテーマは、より具体的なものを記載した上で、取捨選択していく方がよいのではないかと。現在の表現は抽象的であり、議論が発散してしまう可能性がある。
- ・ フードセキュリティに関心を持っており、その点についてもテーマとして取り組むことができればよい。フードセキュリティと聞くと、日本においては食料自給率に注目が集まるが、欧米では貧困や栄養の偏り、きちんとした食べ物へのアクセス等について指すものである。そうした視点で練馬を評価すると、世界でも抜きんできているとの評価がされると思われる。例えば、コインロッカー式の直売についても、新鮮な農産物へのアクセスのしやすさという点では、他国よりも優れている。
- ・ 招聘都市候補の一つであるバンクーバーでは、10年程前にフードセキュリティに関するレポートが発表されており、その中ではいくつかの指標に基づく定量的な評価がされていた。こうした評価軸を参考に、比較の土台を同じくした上で、練馬の良さや不足している点等について評価できるとよい。

#### ■委員

- ・ 現在の分科会案では、提案することを記載しているが、その前提にあるのは課題である。米国を3年前に視察した際には、都市部においては生活用水と農業用水の切り分け等、どの農家からも水に関する話が聞かれ、深刻に悩んでいるという現状を実感した。このように、海外からの招聘者も、何かしらの課題を持ってサミットに参加していると思われることから、その課題の解決に資するような提案を分科会においてできるかが重要である。

#### ■委員

- ・ サミットに最も注目を持つのは、アジアの人ではないか。先進国では日本にのみ都市農業が存在するが、アジア地域においては今後日本と同じような状況を抱えていくと

想定される中、分科会において「農がつくる新しいライフスタイル」は外せないテーマである。加えて、農地政策に関わる「農を活かす新たな都市像」も重要なテーマである。もう一つの視点として、コインロッカーによる直売や防薬シャッターによる減農薬等、農業技術についてもテーマとして取り上げることが重要である。

- ・ 海外では「食の正義」等という話も出ているが、日本においても、昨今の子ども食堂への農産物提供や古くは学校給食への食材提供等、フードセキュリティに関する取組は進められてきた。都市部においては、地方と比較しても、学校給食への地場産品の使用割合は高いと思われることから、宣伝も含め取り上げるとよい。

#### ■委員

- ・ 世界的に注目が集まっているのは、サステナビリティである。農薬の散布や肥料過多による土壌汚染等を防ぐための方策など、人口が集中する都市部において農業がもたらす影響やその悪影響を防ぐための方策等についても、「農を活かす新たな都市像」の視点として盛り込むとよい。

#### ■委員

- ・ 分科会では、海外と練馬区双方における取組と問題点を洗い出し、共通点について話し合っていけるとよい。

#### ■委員

- ・ サミットは、最先端のことを議論していく場であると思う。日本の都市農業は最先端であり、他の都市では都市部に農地を維持していることは考えられず、今後アジアにおいて日本の取組を参考に、都市農業と共存するまちづくりを進めていくことに繋がることが、最も価値のある成果となるのではないかな。
- ・ 分科会のテーマについては、住民、農業、農業を支える政策の3つをテーマにするのが、分かりやすいのではないかな。あまり細かくテーマを分けすぎると議論が難しいため、3つのテーマの中で各委員から意見のあった細かな点について議論いただくことがよいと思う。

#### ■委員

- ・ サミットの前年に予定しているイベントの中で、分科会のテーマについて事務局等で議論し、翌年のサミット本番に持ち寄ることも考えられる。
- ・ 招聘都市がそうそうたる面々である。練馬区という名称では諸外国での認知度は低いいため、「東京練馬区」等、分かりやすい都市名の出し方についても検討が必要である。

#### ■委員

- ・ 分科会は、住民、農業者、行政の3つの切り口で分けることが最もすっきりすると感じた。
- ・ 4月1日に緑<sup>りよくのう</sup>農環境保全係が緑地環境室内に作られた。同係は、農と共生したまちづくりの推進に取り組むことを役割としている。国土交通省としても、都市農業について政策の中心において取り組まなければならない問題であると認識している。都市行

政として、農と共生したまちづくりについては初めて推進していくため、解は示せていないことから、分科会の中でも議論していただくことを期待している。

- ・ 「農を活かす新たな都市像」について、制度を追求するような表現となっていることから、もう少し柔らかい言い方はないか。国土交通省では、都市の中に農地を位置づけるという立ち位置からの制度改正を控えており、その中でいかにして農と共生したまちづくりを検討していくかについて検討する内容としていただけると参画しやすい。さらには、分科会での議論がサミット宣言に繋がるのだと思うが、制度を追求した議論を分科会で行うと、サミット宣言が要望や提言のようなものになってしまう可能性があることから、もう少し表現を検討いただけるとありがたい。

#### ■副委員長

- ・ 分科会に関する事務局案が出されたのは本日が初めてであることから、様々な意見が各委員から出された。各委員の意見を踏まえ、事務局から意見をいただきたい。

#### ■事務局 都市農業担当部長

- ・ 多様な意見をいただきたいと考え、このような案を出させていただいた。
- ・ 「食」についても分科会を設けることを考えたが、その際どのような意見が出されるのかシミュレーションした結果、今回は2つのテーマ案を提示した。
- ・ いただいた意見を踏まえ、再検討が必要であると思っている。もう少しまとめた上で、次回案を出させていただきたい。

### <招聘候補都市>

#### ■副委員長

- ・ 招聘候補都市について、現状ではニューヨークとロンドン、ジャカルタについては決定の目途がたっているとのことだが、その他の都市について意見はあるか。

ー特になしー

### <イベント・その他>

#### ■委員

- ・ イベントに期待する成果と、その成果をサミット本番にどのように繋げていこうと考えたか教えていただきたい。

#### ■事務局 都市農業課長

- ・ まずは、イベントにおいて、どのようなサミットを開催するかについて PR したいと考えている。また、サミット本番の招聘者のうち主要な人を招き、まずは練馬区の都市農業の実情を見て、理解いただき、ざっくばらんな話をさせていただく中で、サミットにおいて実のある情報発信ができるように、サミットにおいて議論する内容等について焦点を絞っていくことを考えている。

#### ■委員

- ・ プレイベント 2 日目の農業者と研究者の意見交換の中で出された意見を集約し、それをサミット本番に繋げていくという理解で良いか。

#### ■事務局 都市農業課長

- ・ そうである。

#### ■委員

- ・ プレイベントがサミット本番前の小さなイベントでは意味がなく、新たな目的を持った取組としていただきたい。プレイベントでは、翌年にサミット本番を開催することについて、都市住民を含め広く周知していくことが重要である。また、都市農業に関わる研究や取組について、国内を中心に洗いなおすことも重要である。

#### ■委員

- ・ 都市農業の体験や視察が、プレイベントおよびサミット本番で行われる予定であり、農産物のある時期ということで開催時期を同じにしているが、開催時期を変えることで、農産物の違いが出て、異なる体験ができることも参加者にとって面白いのではないか。

### <市民参加の推進>

#### ■委員

- ・ 「3 (2) サミットを契機にする取組」と記載があるが、サミットを目標にして取り組んで、サミットにおいて成果を出すものと、サミットを踏まえて取組を行うものがある。サミットを見据えて、今から取り組むものについて検討していただきたい。具体的には、GAP 取得に向けた取組について東京都では支援していることから、農業者に取得してもらい、欧州等で進んでいるグローバル GAP に負けない農業を都市農業が取り組んでいることをアピールしていただきたい。
- ・ また、農地についても、国土交通省による新たな制度整備が進む中、新たな制度に基づいた取組の成果を出していただきたい。

#### ■委員

- ・ 開催時期について、季節的にどうか。寒い時期だと、集客も難しいのではないか。

#### ■委員

- ・ 真夏よりも収穫物も多く、良い時期である。

#### ■副委員長

- ・ 委員の意見は大事な点である。分科会をこれまでの取組の発表の場とするのか、国内の事例等から学びながら、実践的な取組を推進していくことも視野に入れながら分科会を組織し運営していくか等、分科会の取組とも関係してくる。どのような姿勢で取り組んでいくかについて、考えるべき大きな点である。

#### ■委員

- ・ 普段取り組んでいることが、当たり前に行っていることもあるため、どれほど魅力が



あると評価されるのか分からない。新しい取組を始めるにあたって、一般の人がどのような点に感動してくれるのか分からない。つまり、市民参加の推進が最も難しい点ではないか。市民参加の形や、新たな都市像等、練馬の素晴らしさを引き出してもらう機会となればよい。また、一般の人が感動するような取組となるとよい。

#### ■委員

- ・ 通訳スタッフの登録方法や登録者数等の概要を教えてください。

#### ■事務局 都市農業調整課長

- ・ 通訳ボランティアは現在194名登録されており、そのうち英語通訳が半数程を占める。登録された通訳ボランティアは、小中学校や福祉事務所等、種々な場所において通訳のボランティアをしていただいている。

### <実施体制>

#### ■委員

- ・ 実行委員会では、具体的に何を行うのか。

#### ■事務局 都市農業課長

- ・ 推進委員会は、委員よりいただいた意見を踏まえ、練馬区で決定するという位置づけだが、実行委員会では、実行委員会で何を行うか議論・決定し、実行委員会で実施していくことになる。

#### ■副委員長

- ・ 例えば、実行委員会のメンバーを分科会に割り振り、分科会の運営等を行ってもらうこと等も想定しているのか。

#### ■委員

- ・ サミット宣言に向けた土台づくり等、実行委員会で何をどうするのか分からない。

#### ■事務局 都市農業課長

- ・ 実際の運営については、練馬区を中心に進めていくが、サミット宣言作成に向けた進め方や分科会の進め方等について推進委員会のように意見等をいただきたい。

#### ■事務局 都市農業調整課長

- ・ 実行委員会形式を選択した理由は2点ある。1点は、主催者を実行委員会としたいためである。2点目は、実行委員会形式にすることで、収支の管理もできるためである。
- ・ 直近では、練馬こぶしハーフマラソンも実行委員会形式を採用しており、実行委員会が主催し、協賛金等の協力を得ながら運営している。こうした例を参考にしながら運営していきたいと考えている。

#### ■委員

- ・ 収支管理等含め、具体的なイベント設営等も含まれる中、推進委員会と実行委員会のメンバーとは分けて考えるべきである。推進委員会の全委員を実行委員会メンバーとして認め、全員の意見をまとめることは難しいことから、もう少し機動性のある実行

委員会を組織すべきである。

■委員

- ・ 実行委員会の構成メンバー案を作る前に、メンバーや関係組織に調整すべきである。

■事務局 都市農業担当部長

- ・ これまでは、練馬区が主催として、推進委員会で意見をいただきながら進めていく方式であったが、練馬区も参加した上で実行委員会として一緒に進めていきたいの思いから、全推進委員会委員に実行委員会への参加を依頼するという意図であった。しかしながら、機動性等も含め意見をいただいたことから、再度検討したい。

### 3 その他

■事務局 都市農業調整課長

- ・ 前回の推進委員会の会議録については、各委員の確認を得たので、練馬区ホームページで公開をさせていただく。ご了承いただきたい。公開にあたっては、これまでと同様に委員長・副委員長・委員とし、事務局は職名で記載する。
- ・ 次回の推進委員会は、7月17日の週にて日程を早急に調整し、確定後ご案内する。

### 4 閉会

■副委員長

- ・ それでは、これで本日の会議を終了する。